

4. 総括ワークショップのまとめ

日時：平成16年7月4日（日） 14：00～17：00

会場：人と防災未来センター 5階

14：00 はじめに

- （5分）
- ・主旨説明
 - ・進め方の説明

14：05 ステップ0

- （10分）
- ・アイスブレイク

14：15 ステップ1

- （25分）
- ・各地域の成果の確認（『10年間を振り返って』）
～各地域のまとめを見ながら、ふさわしくない分類、誤字等を修正する～

各部会長も一緒に作業をする

14：40 ステップ1.5

- （50分）
- ・全地域でのまとめ
～全地域の意見として会場全体で議論しながらまとめ、
重要と思われる項目5つを選び投票する～

15：30 ～休憩～

（10分）

15：40 ステップ2

- （25分）
- ・各地域の成果の確認（『将来に向けて』）
～各地域のまとめを見ながら、ふさわしくない分類、誤字等を修正する～

各部会長も一緒に作業をする

16：05 ステップ2.5

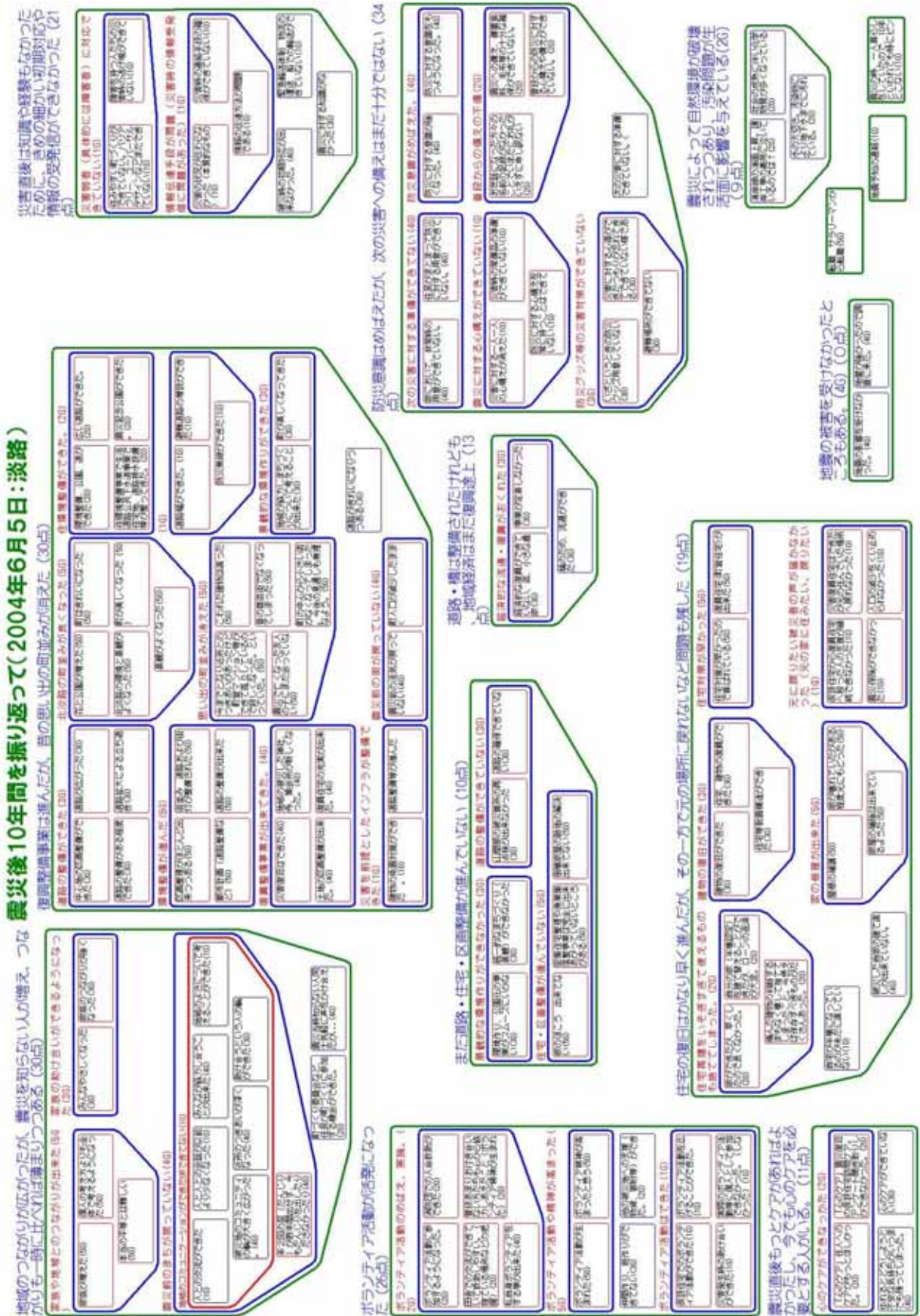
- （50分）
- ・全地域でのまとめ
～全地域の意見として会場全体で議論しながらまとめ、
重要と思われる項目5つを選び投票する～

16：55 最後に

- （5分）
- 部会長の代表によるコメント

17：00 終了

・ステップ1：各地域のまとめ



震災後10年を振り返って(2004年6月6日:阪神北)

ボランティア・NPOなどによる市民力が高まった (30点)

震災ボランティア活動の増加 (100)
 市民ボランティアの増加 (100)
 NPOの増加 (100)
 市民ボランティアの増加 (100)
 NPOの増加 (100)
 市民ボランティアの増加 (100)
 NPOの増加 (100)

防災意識が高まった (22点)

防災意識の高まり (100)
 防災意識の高まり (100)
 防災意識の高まり (100)
 防災意識の高まり (100)

コミュニティ活動や市民同士のつながりが生まれた (27点)

コミュニティ活動の増加 (100)
 市民同士のつながり (100)
 コミュニティ活動の増加 (100)
 市民同士のつながり (100)

心のケアが不十分である (16点)

心のケアの不十分さ (100)
 心のケアの不十分さ (100)
 心のケアの不十分さ (100)

震災の記憶の風化し、危機意識がうすれている (28点)

震災の記憶の風化 (100)
 危機意識のうすれ (100)
 震災の記憶の風化 (100)
 危機意識のうすれ (100)

10年検証をきっかけに、災害対策を考えた (23点)

10年検証のきっかけ (100)
 災害対策の検討 (100)
 10年検証のきっかけ (100)
 災害対策の検討 (100)

ボランティア活動やインフラ整備がまた (9点)

ボランティア活動の増加 (100)
 インフラ整備の進展 (100)
 ボランティア活動の増加 (100)
 インフラ整備の進展 (100)

経済の再建は難しい (5点)

経済再建の難しさ (100)
 経済再建の難しさ (100)

自動は達成されたが、互助は進みつつある (9点)

自動達成 (100)
 互助の進展 (100)
 自動達成 (100)
 互助の進展 (100)

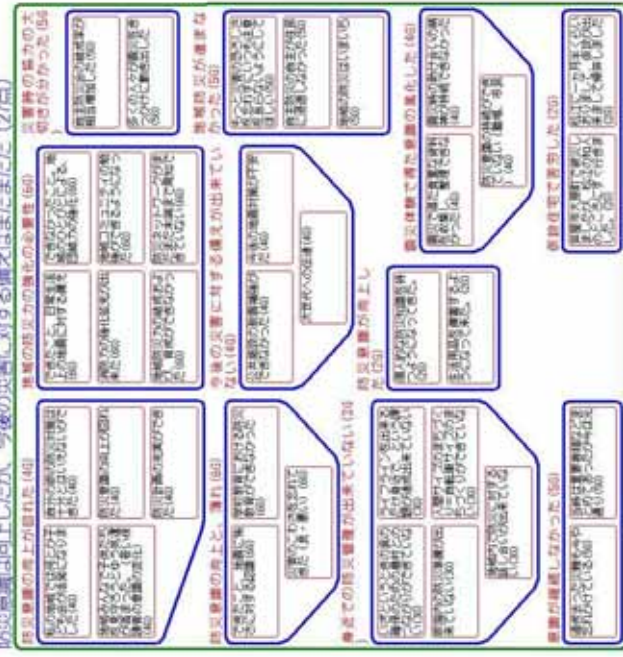
行状でできたこと、できなかったことの評価は様々であるが、市民活動支援を活動してほしい (29点)

行状の評価 (100)
 市民活動支援の希望 (100)
 行状の評価 (100)
 市民活動支援の希望 (100)

地域ネットワーク、グループ活動やコミュニティのつながりは向上したが新しいままでは不足している (30点)



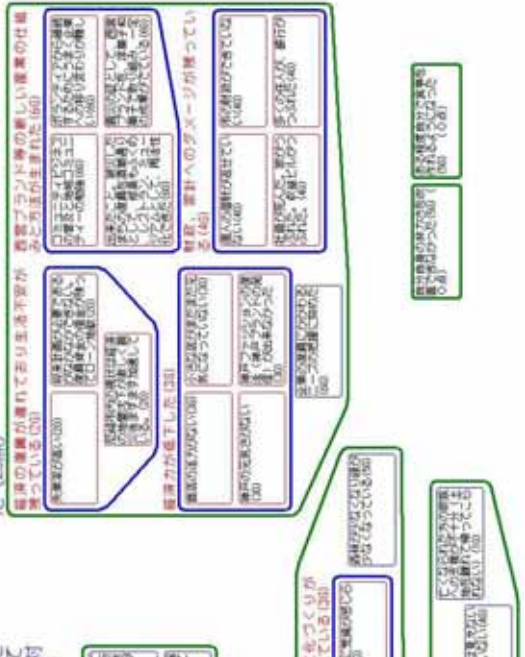
震災後10年を振り返って (2004年6月6日：阪神南) 防災意識は向上したが、今後の災害に対する備えはまだまだ (27点)



子育てや学校との連携を大事にしよう (5点)



新しい雇用の仕組みなどは生まれましたが、経済の復興はこれから (29点)



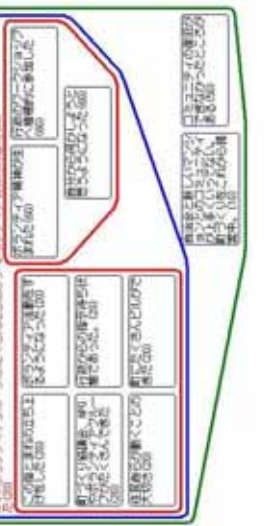
健康第一・いのちが大切だとわかって (5点)



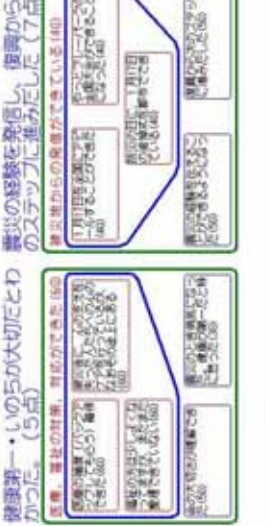
異業種や芸術文化、まちの復興が進んでいる (6点)



主に高齢者や遺族へのケアができていない (4点)



若者や学生へのケアができていない (3点)



震災後10年を振り返って(2004年6月12日:神戸)

ボランティア活動の原動力が高まり、活性化し、個人でも参加が出来るようになった。(17点)



震災のとき、助まじや人の縁の大切さが身にしみ人が、またまじの復興が成っている。(19点)



10年前はなかったが、住民の自治的なリーダーの育成が必要である(15点)



産業や家計の復興ができていない(12点)



防災への意識が高まったが、被災者の偏差や外出意識をもちつづけることがまだできていない。(31点)



建物やまちの景観の復興に地域がめられる。(18点)



行政の取り組みが遅れている。(19点)



被災者へのケアができていない(18点)



一帯では地域コミュニティや新しいネットワークが広がっているが、新住民のつながりがまだ十分である。(19点)



住宅の復興はまだら模様。(9点)



この10年の震災体験を踏まえ、みんなが参って来ている。(17点)



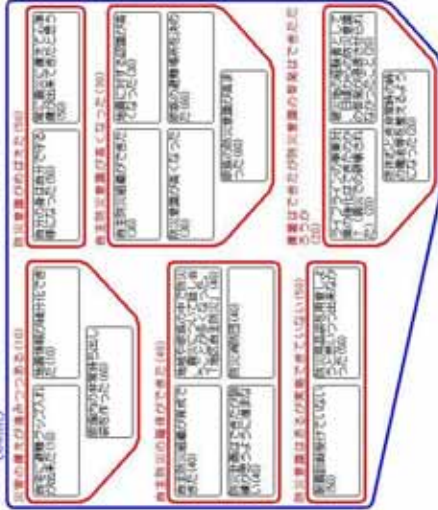
震災の記録と記憶を伝えたい(18点)



震災後10年を振り返って(2004年6月20日:明石・三木)

家族や地域の防災意識が芽生え、災害の備えが進んでいるが、

● (36点)



災害復旧や町並みの整備は進み、ビルや住宅ができたが、現状鉄

道など、できなかつたこともある (20点)



心身生活・震災を忘れない行事も含めて、防災や安全対策

に取り組むようになった (30点)

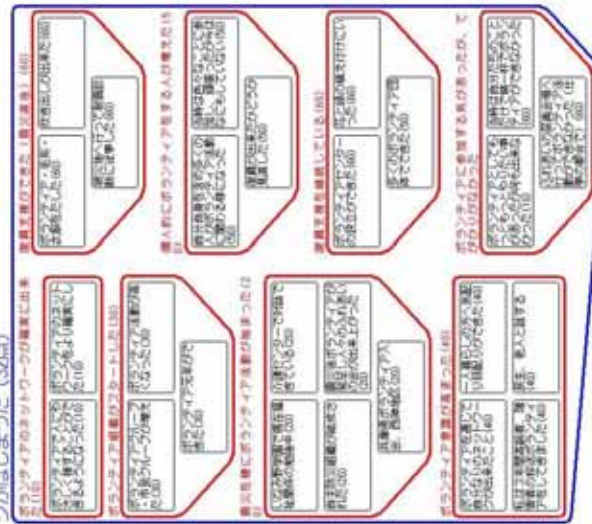


震災現場の体験への思いが今もある (10点)



震災を機に復興支援ボランティア活動がはじまり、ネットワー

クがはじまった (32点)



若者の生活援助や高齢者福祉

への取り組みを考へるべきであ

る (28点)



人の心や精神的な復興はまだ

できていない (22点)



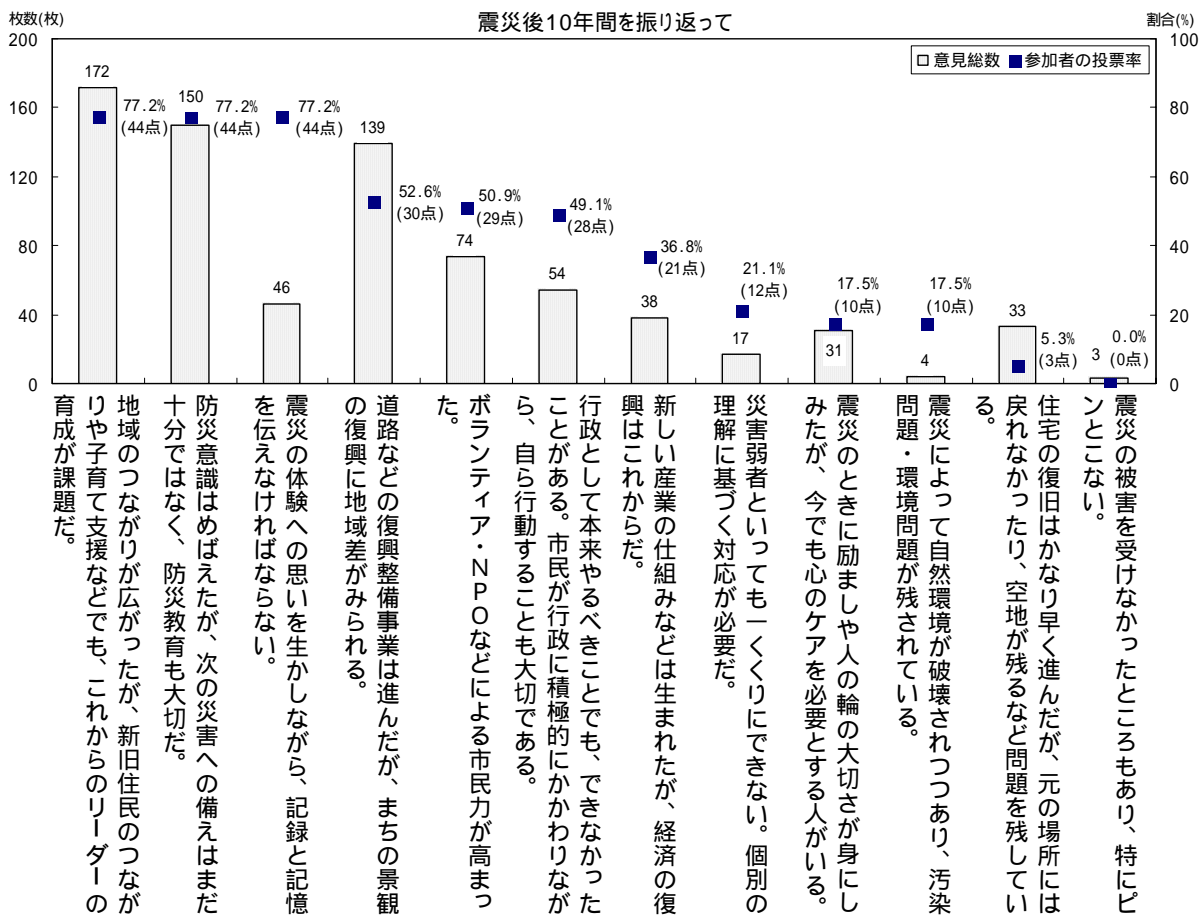
失業者が多く、仕事がなくなつ

た。中小企業の復興もまだ、

(5点)



・「震災後10年を振り返って」について



総括ワークショップの参加者51名と検証部会長等6名を加えた57名で「震災後10年間を振り返って」をまとめ、順位付けを行った結果は上図のようになった。

その結果、「地域のつながりは広がったが、新旧住民のつながりや子育て支援などでも、これからのリーダーの育成が課題だ。」「防災意識はめばえたが、次の災害への備えは十分でなく、防災教育も大切だ。」「震災の体験への思いを生かしながら、記録と記憶を伝えなければならない。」の3項目がいずれも44点で、参加者の77.2%が投票している。

一方、意見数で見ると、最も多いのは、「地域のつながりは広がったが、...」(172枚) について「防災意識はめばえたが、...」(150枚)「道路などの復興整備事業は進んだが、まちの景観の復興に地域差がみられる。」(139枚)となっている。

また、投票数で見た上位3項目のうち、「地域のつながりは広がったが、...」と「防災意識はめばえたが、...」では、その中に含まれているほとんどの項目が、各地域で上位5位以内の投票数のもので構成されているが、「震災の体験への思いを生かしながら、...」については、各地域の投票では5位以下だったもので構成されている。

各項目にどの地域の意見が含まれているかで見ると、投票数の上位3項目と「新しい産業の仕組みなどは生まれたが、経済の復興はこれからだ。」および「震災のときに、励ました人や人の輪の大切さが身にしみたが、今でも心のケアを必要とする人がいる。」には全地域の意見が含まれ、関心の高さがうかがえる。

・ステップ2：各地域のまとめ

将来に向けて(2004年6月5日:淡路)

ボランティアの受け入れや組織化を今後も充実させていくことが大切だ(25点)

ボランティアの受け入れ(10)	ボランティアの受け入れ(10)
ボランティアの受け入れ(10)	ボランティアの受け入れ(10)

ボランティアの受け入れ(10)

ボランティアの受け入れ(10)

住居団土・地域のつながりを大切にしよう(37点)

住居団土・地域のつながりを大切にしよう(10)	住居団土・地域のつながりを大切にしよう(10)	住居団土・地域のつながりを大切にしよう(10)	住居団土・地域のつながりを大切にしよう(10)
-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

住居団土・地域のつながりを大切にしよう(10)

住居団土・地域のつながりを大切にしよう(10)

日ごろから自分たちでできる備えを軽減しよう(27点)

日ごろから自分たちでできる備えを軽減しよう(10)	日ごろから自分たちでできる備えを軽減しよう(10)	日ごろから自分たちでできる備えを軽減しよう(10)	日ごろから自分たちでできる備えを軽減しよう(10)
---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------

日ごろから自分たちでできる備えを軽減しよう(10)

日ごろから自分たちでできる備えを軽減しよう(10)

安全・安心で美しく心豊かな住まいやまちをつくるについでに(17点)

安全・安心で美しく心豊かな住まいやまちをつくるについでに(10)	安全・安心で美しく心豊かな住まいやまちをつくるについでに(10)
----------------------------------	----------------------------------

安全・安心で美しく心豊かな住まいやまちをつくるについでに(10)

安全・安心で美しく心豊かな住まいやまちをつくるについでに(10)

災害に強いまちは住民と行政の対話が基本になる(27点)

災害に強いまちは住民と行政の対話が基本になる(10)	災害に強いまちは住民と行政の対話が基本になる(10)	災害に強いまちは住民と行政の対話が基本になる(10)	災害に強いまちは住民と行政の対話が基本になる(10)
----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------

災害に強いまちは住民と行政の対話が基本になる(10)

災害に強いまちは住民と行政の対話が基本になる(10)

被害防止策、被害軽減策、災害対応、復旧・復興のすべての局面で行政は力をいれてほしい(29点)

被害防止策(10)	被害軽減策(10)	災害対応(10)	復旧・復興(10)
-----------	-----------	----------	-----------

被害防止策(10)

被害軽減策(10)

災害対応(10)

復旧・復興(10)

被災体験・復興体験を継承して(50)

被災体験(10)	復興体験(10)	被災体験(10)	復興体験(10)
----------	----------	----------	----------

被災体験(10)

復興体験(10)

被災体験(10)

復興体験(10)

被災体験・復興体験を継承して(21点)

被災体験(10)	復興体験(10)
----------	----------

被災体験(10)

復興体験(10)

安全・安心で美しく心豊かな住まいやまちをつくるについでに(17点)

安全・安心で美しく心豊かな住まいやまちをつくるについでに(10)	安全・安心で美しく心豊かな住まいやまちをつくるについでに(10)
----------------------------------	----------------------------------

安全・安心で美しく心豊かな住まいやまちをつくるについでに(10)

安全・安心で美しく心豊かな住まいやまちをつくるについでに(10)

被災体験・復興体験を継承して(21点)

被災体験(10)	復興体験(10)
----------	----------

被災体験(10)

復興体験(10)

将来に向けて(2004年6月12日:神戸)

様々な地域活動(ボランティア・NPO・自治会・OB)がしやすくなる環境を整えていくことが大切だ。(25点)



早く安全・安心で豊かにならねばならない(18点)



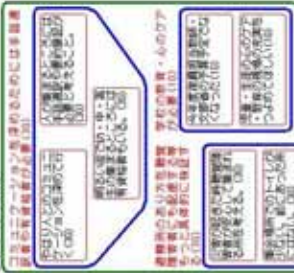
高齢者や障害者の多い住宅への様々な支那の取り組みが必要だ。(22点)



災害に対する自動・共助・公助の組み合わせを強めていこう。日常が非常を支える。(29点)



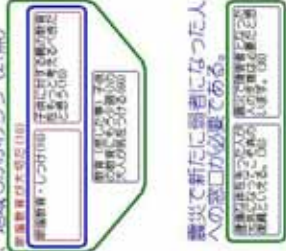
災害時に、被害には特別な対応の種別。(25点)



地域の中の新旧・世代を超えたつながりやさまざまな作っていく(30点)



このしつけは家だけでなく地域もかかわる。(21点)



震災で新たに被害者になった人への窓口が必要である。

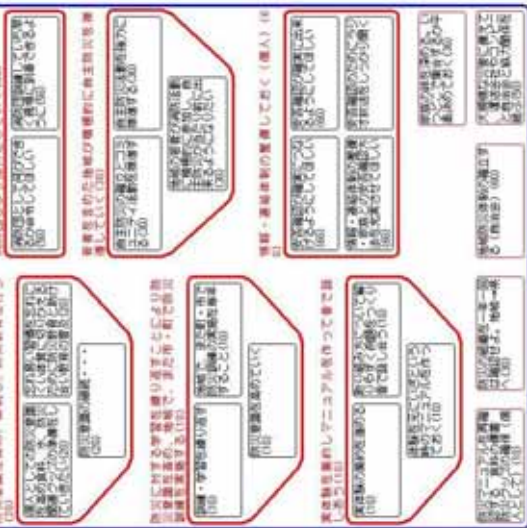


将来に向けて(2004年6月20日:明石・三木)

ボランテア精神を風化させずに、人間関係を大切にしてい
 感謝の気持ちを忘れないういよう (32点)



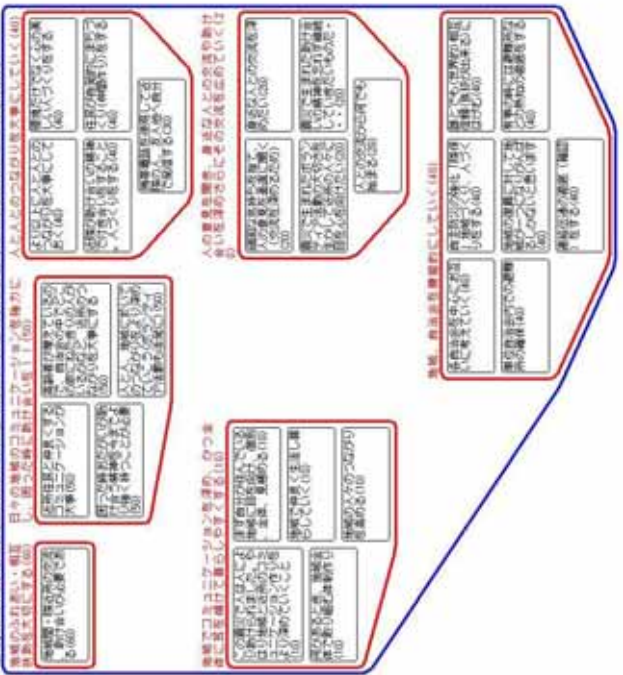
防災の効率的であるためには、**自助・共助・公助**の組み合わせが大切だ (28点)



外出困難な人達が自由にまち
 に出て行く環境を整備しよ
 う (8点)



地域の中の人と人とのつながりを探る、多様な交流を促していこう (34点)



災害に強く地域の景観を生かした街づくり・都市環境整備を真
 り求める (22点)



防災体験や訓練を忘れずに、次世代や世界に伝えていこう (32点)



地域問題の解決のためには、**住民と行政の参加と協働**が重要だ (26点)



・ステップ2：総括でのまとめ

復興10年総括検証ワークショップ(総括) 将来に向けて (2004年7月4日)

これから大切にしていきたい人生の価値を考えていこう (1点)

被災者支援活動の継続 (1点)	被災者支援活動の継続 (1点)
被災者支援活動の継続 (1点)	被災者支援活動の継続 (1点)

ボランティア活動の振興、サポート、連携、組織化が大切だ (46点)

ボランティア活動の振興、サポート、連携、組織化が大切だ (46点)	ボランティア活動の振興、サポート、連携、組織化が大切だ (46点)	ボランティア活動の振興、サポート、連携、組織化が大切だ (46点)
ボランティア活動の振興、サポート、連携、組織化が大切だ (46点)	ボランティア活動の振興、サポート、連携、組織化が大切だ (46点)	ボランティア活動の振興、サポート、連携、組織化が大切だ (46点)

安全・安心して美しく、誰でもまちに出て行ける人間中心のまちづくりをしよう (41点)

安全・安心して美しく、誰でもまちに出て行ける人間中心のまちづくりをしよう (41点)	安全・安心して美しく、誰でもまちに出て行ける人間中心のまちづくりをしよう (41点)	安全・安心して美しく、誰でもまちに出て行ける人間中心のまちづくりをしよう (41点)
安全・安心して美しく、誰でもまちに出て行ける人間中心のまちづくりをしよう (41点)	安全・安心して美しく、誰でもまちに出て行ける人間中心のまちづくりをしよう (41点)	安全・安心して美しく、誰でもまちに出て行ける人間中心のまちづくりをしよう (41点)

地域の中の人と人とのつながりを深め、多様な交流を広めていこう (45点)

地域の中の人と人とのつながりを深め、多様な交流を広めていこう (45点)	地域の中の人と人とのつながりを深め、多様な交流を広めていこう (45点)	地域の中の人と人とのつながりを深め、多様な交流を広めていこう (45点)
地域の中の人と人とのつながりを深め、多様な交流を広めていこう (45点)	地域の中の人と人とのつながりを深め、多様な交流を広めていこう (45点)	地域の中の人と人とのつながりを深め、多様な交流を広めていこう (45点)

被害抑止策・被害軽減策・災害対応・復旧復興のすべての局面に行政は力を入れるべきだ (32点)

被害抑止策・被害軽減策・災害対応・復旧復興のすべての局面に行政は力を入れるべきだ (32点)	被害抑止策・被害軽減策・災害対応・復旧復興のすべての局面に行政は力を入れるべきだ (32点)	被害抑止策・被害軽減策・災害対応・復旧復興のすべての局面に行政は力を入れるべきだ (32点)
被害抑止策・被害軽減策・災害対応・復旧復興のすべての局面に行政は力を入れるべきだ (32点)	被害抑止策・被害軽減策・災害対応・復旧復興のすべての局面に行政は力を入れるべきだ (32点)	被害抑止策・被害軽減策・災害対応・復旧復興のすべての局面に行政は力を入れるべきだ (32点)

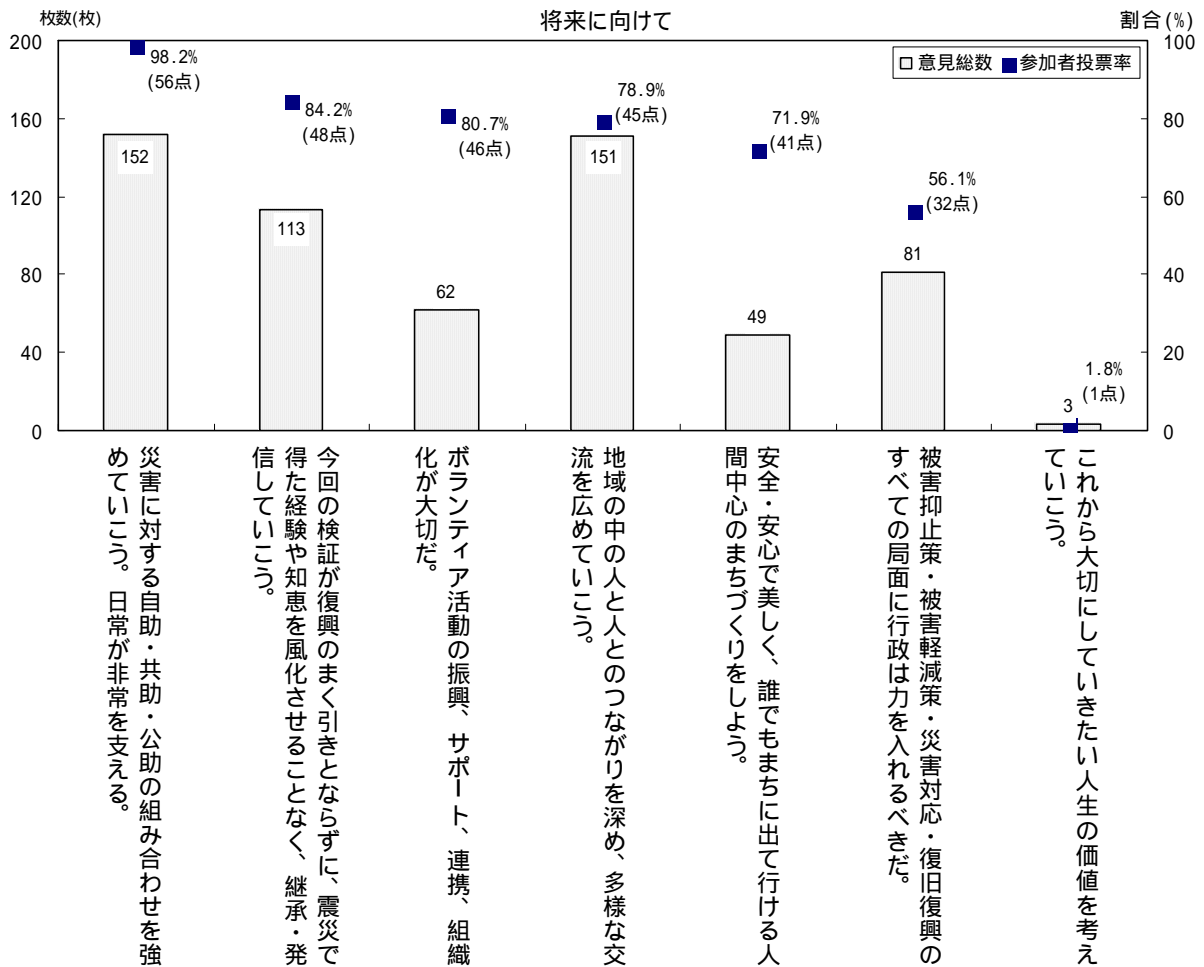
災害に対する自助・共助・公助の組み合わせを強めていこう。日常が非常を支える。(56点)

災害に対する自助・共助・公助の組み合わせを強めていこう。日常が非常を支える。(56点)	災害に対する自助・共助・公助の組み合わせを強めていこう。日常が非常を支える。(56点)	災害に対する自助・共助・公助の組み合わせを強めていこう。日常が非常を支える。(56点)
災害に対する自助・共助・公助の組み合わせを強めていこう。日常が非常を支える。(56点)	災害に対する自助・共助・公助の組み合わせを強めていこう。日常が非常を支える。(56点)	災害に対する自助・共助・公助の組み合わせを強めていこう。日常が非常を支える。(56点)

今回の検証が復興のまき引きとならずに、震災で得た経験や知恵を風化させることなく、継承・発信していこう (48点)

今回の検証が復興のまき引きとならずに、震災で得た経験や知恵を風化させることなく、継承・発信していこう (48点)	今回の検証が復興のまき引きとならずに、震災で得た経験や知恵を風化させることなく、継承・発信していこう (48点)	今回の検証が復興のまき引きとならずに、震災で得た経験や知恵を風化させることなく、継承・発信していこう (48点)
今回の検証が復興のまき引きとならずに、震災で得た経験や知恵を風化させることなく、継承・発信していこう (48点)	今回の検証が復興のまき引きとならずに、震災で得た経験や知恵を風化させることなく、継承・発信していこう (48点)	今回の検証が復興のまき引きとならずに、震災で得た経験や知恵を風化させることなく、継承・発信していこう (48点)

・「将来に向けて」について



総括ワークショップの参加者51名と検証部会長等6名を加えた57名で「将来に向けて」をまとめ、順位付けを行った結果は上図のようになった。

その結果、投票数が最も多かったのは、「災害に対する自助・共助・公助の組み合わせを強めていこう。日常が非常を支える。」(98.2%、56点) ついで「今回の検証が復興のまく引きとならずに、震災で得た経験や知恵を風化させることなく、継承・発信していこう。」(84.2%、48点) 「ボランティア活動の振興、サポート、連携、組織化が大切だ。」(80.7%、46点) となっている。

一方、意見数でみると、最も多いのは、「災害に対する自助・共助・公助の...」(152枚) 次いで「地域の中の人と人とのつながりを深め、多様な交流を広げていこう。」(151枚) 「今回の検証が復興のまく引きとならず、...」(113枚) と、これらはいずれも100枚以上の意見が包含されている。

また、投票数の上位3項目においては、「10年間を振り返って」とは異なり、各地域の上位5項目との関係は明確にはみられなかった。

各項目にどの地域の意見が含まれているかでみると、「これから大切にしていきたい人生の価値を考えていこう。」を除いて、どの項目にも各地域の意見がほぼ均等に含まれている。

・総括ワークショップの様子



齋藤副知事のあいさつとともに開始



まずはアイスブレイクから



すぐに熱心な話し合いが始まった



旗を使ってのステップ1のまとめ



続いてステップ2でも積極的な意見が飛び交う



各地域とも時間を忘れるほどの話し合いが続く



再び旗上げによるまとめ



丸シールで重要だと思われる意見に投票